

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。



2K4K8K

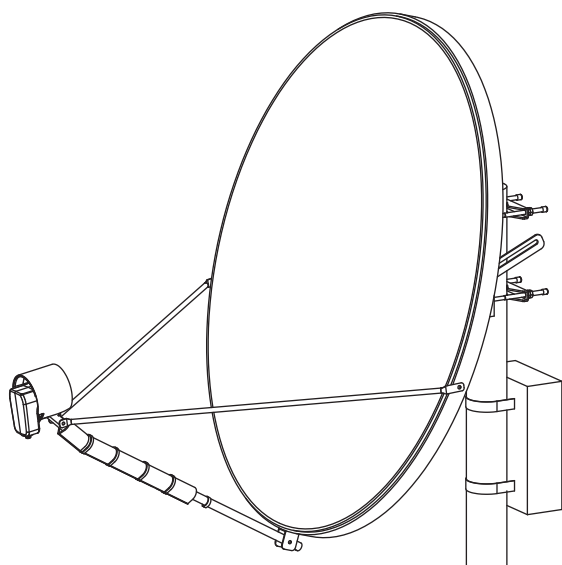
融雪装置付90形BS・110度CSアンテナ

BSデジタル放送・スカパー!受信用
右・左旋円偏波対応

BCH902S

新4K8K衛星放送に対応

すべての2K・4K・8K放送(3224MHz)に対応しています。

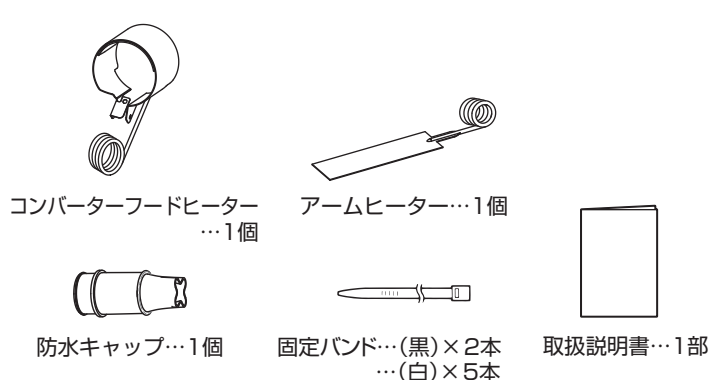
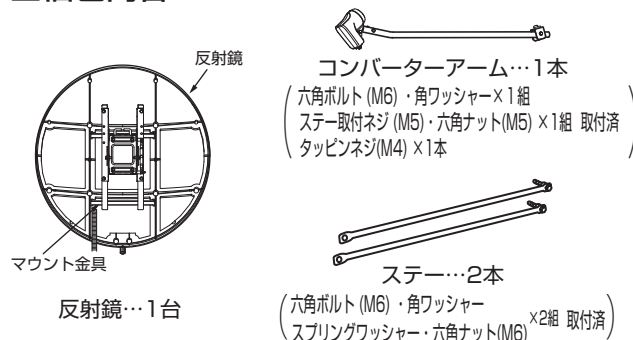


※本製品は共同受信用機器(業務用)です。
※必ず融雪装置用中継器 RB100(別売)と組み合わせて
使用してください。
※RB100(別売)のサーモスタットの動作温度の目安は、
ON: 約 7℃ OFF: 約 17℃です。

もくじ

	ページ
はじめに	
安全上のご注意	2~3
お取扱いの前に	4
シーズンはじめの点検と確認	4
設置	
BS・110度CSアンテナ設置について	5
組立・取付	
アンテナの組み立て	6~7
アンテナマストへの取り付け	7
接栓への同軸ケーブルのつなぎ方	8
調整	
アンテナを調整する	9~11
仕様	
規格特性	12

■梱包内容



■設置に必要な工具

- スパナ
- カッターナイフ
- ニッパー
- ペンチ
- ドライバー

このアンテナはスカパー!(110度CS)を受信できますが、スカパー!プレミアムサービス(JCSAT3,4)は受信できません。

保証書は取扱説明書の最後のページに記載しています。

は
じ
め
に

設
置

組
立
・
取
付

調
整

仕
様

安全上のご注意



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。



警告

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



- アンテナ工事およびテレビ受信関連工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。



- アンテナの表面に弊社指定以外のシール類を貼ったり、塗装したりしないでください。太陽光の反射熱で熱せられてコンバーターが焼けたり、変形したりして、故障の原因となることがあります。（製品に使用しているシールおよび塗料は安全性と耐候性に問題がないことを検証して製品化しています。）



- コンバーターに接続する同軸ケーブルには電流が流れますので、同軸ケーブルを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものをのせたり、加熱しないでください。火災や感電の原因となります。



- コンバーターのケースを開けたり、分解して内部に触れないでください。感電やけがの原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店もしくは工事店にご依頼ください。



- アンテナや取付装置などに登ったり、乗ったりしないでください。特にお子様のいるご家庭では注意してください。落ちたり、倒れたり、破損したりして、けがの原因となります。



- 雷が鳴り出したら、アンテナや同軸ケーブル、融雪装置の電源ケーブルには触れないでください。感電の原因となります。



- 万一、このアンテナを落としたり、コンバーターを破損した場合は、接続しているチューナーの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると感電やけがの原因となります。



- アンテナ裏面に極薄フィルムヒーターを貼付してありますので、裏面を鋭利なもので刺したり、傷つけたりしないでください。



- 万一、アンテナを落として、アンテナ裏面に傷をつけた場合は、弊社にご相談ください。そのまま使用すると感電やケガの原因となります。



注意

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



- 台風の後や積雪の後などは、アンテナや取付装置に緩みや異常が生じることがあります。そのままですと破損したりして、けがや故障の原因となることがあります。点検はお買い上げの販売店または工事店にご依頼ください。



- アンテナや取付装置などに洗濯物や他の物品を掛けたりしないでください。倒れたり、破損したりして、けがの原因となることがあります。

警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

はじめに

設置

組立・取付

調整

仕様



- 送配電線、ネオンサイン、電車の架線などの近くに設置しないでください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となります。また、電話線などの近くに設置しないでください。アンテナが倒れた場合、断線の原因となります。



- 高所などに設置する場合は、足場と安全を確保して行なってください。落ちたり、すべったりして、けがの原因となります。



- アンテナの部品や工具類を高いところから落とさないでください。けがの原因となります。



- 風の強い日や雨、雪、雷などの天候が悪い日は、危険ですので設置工事をしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。



- 人や車両の通行の妨げになる場所には設置しないでください。人がぶつかったり、車両が接触してけがや破損の原因となります。



- 強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- アンテナを煙突の付近や高温になる場所に設置しないでください。火災や感電の原因となります。



- 組み立てや取り付けのネジやボルトは、締め付け力（トルク）に指定がある場合はその力（トルク）で締め付け、堅固に固定してください。指定外の締め付け力で組立て、取付しますと落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- コンバーターに接続する同軸ケーブルに電流が流れますので、途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。火災や感電の原因となります。



- コンバーターは仕様の電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因となります。



- アンテナや取付装置のお手入れや点検は、風雨、雷、雪など天候の悪い日は、危険ですので作業を行わないでください。落ちたりして、けがの原因となります。



- 融雪装置はAC100Vを越える電源電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- 取付工事の際に、アンテナ裏面にものをぶつけたり、損傷を与えないでください。火災・感電の原因となります。



- ヒーターケーブル工事の際にPF管やケーブルを無理に引っ張ったり、曲げたり、重いものをのせたり、傷をつけたりしないでください。接続部が外れたりケーブルが切れたりして、火災・漏電・感電の原因となります。

注意

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



- このアンテナは、強風の影響を受けやすいので、アンテナの取り付けには、マストおよび取付金具類はアンテナ径により指定された十分強度のあるものを使用し、堅固に設置してください。



- マンションやアパートなどによっては、取り付けに規制のあるところがあります。管理組合、管理事務所、自治会などに必ず確認のうえ、取り付けてください。



- アンテナの表面の汚れは、水またはぬるま湯を含ませた柔らかい布で、軽く拭きとってください。シンナー、ベンジンをはじめ薬品や洗剤は、表面の仕上げを傷めますので、使用しないでください。

お取扱いの前に

- 組み立て、取付作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。
- 取り付けのときは、2人以上で行なってください。
- 雷雨や豪雨のような強い雨が降ったりすると、電波が弱くなり、受信できなくなる場合があります。**
- 設置後、万一締め付けや取り付けにゆれが生じると危険ですので、定期的に点検をしてください。
- すべての放送(2K・4K・8K)を見るためには、3224MHzに対応した同軸ケーブル、ブースター、分配器などが必要です。
- コンバーターの出力端子に取り付ける同軸ケーブルの心線径が1.0mmより太いものを使用する場合は、必ずコンタクトピン付のC15形接栓を使用してください。心線径が1.0mmより太い同軸ケーブルを直接接続すると故障の原因となります。
- 本製品はアンテナの融雪を目的とするものであり、凍結や凝結防止、または采暖を目的とするものではありません。
- シーズン終了後および長期運転停止など、しばらく使用しない場合は、元電源ブレーカー(主漏電ブレーカー)を切ってください。
※誤動作防止、安全の為に必ず行ってください。
- 組み立て、取り付け、調整の際は、ヒーター部に傷をつけないように注意してください。

シーズンはじめの点検と確認

※電気技術者、電気工事士の資格を持っている人以外は絶対に行わないでください。感電、機器を破損する恐れがあります。

(1) 絶縁抵抗測定

- 融雪装置の元電源ブレーカー(主漏電ブレーカー)を「切」にしてください。

<アース導通検査>

絶縁抵抗計を用いてDC250Vを印加します。

融雪装置用中継器の端子台左から3番目のE端子に絶縁抵抗計のアース側、端子台右から5番目のE端子に絶縁抵抗計のライン側を接触させ、0Ωになることを確認してください。

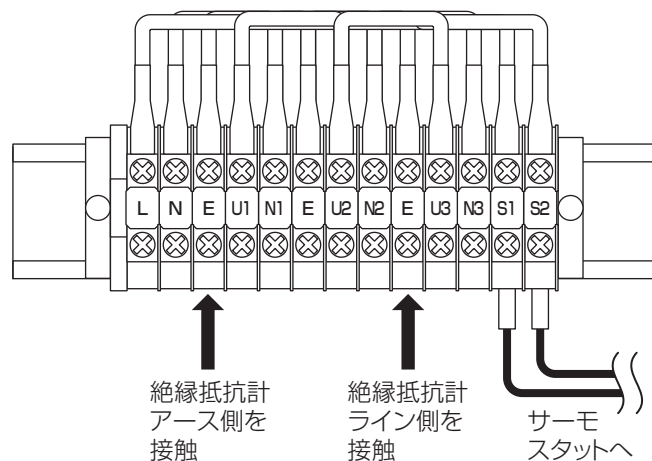
<アンテナヒーターの絶縁抵抗検査>

絶縁抵抗計を用いてDC125Vを印加します。

融雪装置用中継器の端子台左から3番目のE端子に絶縁抵抗計のアース側、コンバーターフードヒーターの入出力端子U1、N1にライン側をそれぞれ接触させ、1MΩ以上あることを確認してください。

(L-E間、N-E間の絶縁抵抗検査)

※上記以外の箇所は、破損の恐れがありますので絶縁抵抗計(メガー)を使用しないでください。

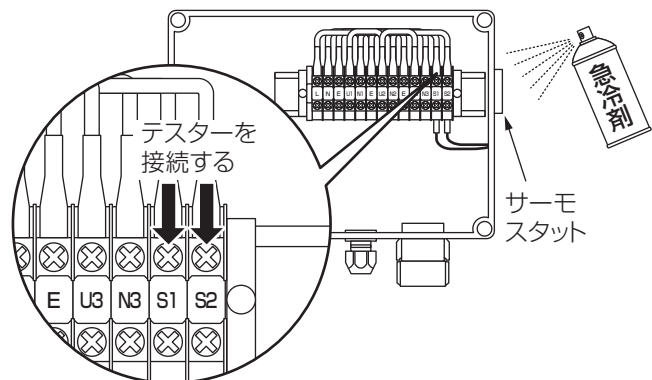


(2) 外気温検知サーモスタート動作確認

- 融雪装置の元電源ブレーカー(主漏電ブレーカー)を「切」にしてください。
- テスターを抵抗レンジにし、サーモスタート入出力端子S1、S2に接続します。
- 融雪装置用中継器RB100(別売品)の外面に取り付けてあるサーモスタートにスプレー式の急冷剤を吹き付けて、温度を下げた時にサーモスタートが「ON」になり、テスターが0Ωになることを確認してください。

<サーモスタート仕様>

ON: 約7℃ OFF: 約17℃



(3) 入力電源電圧の確認

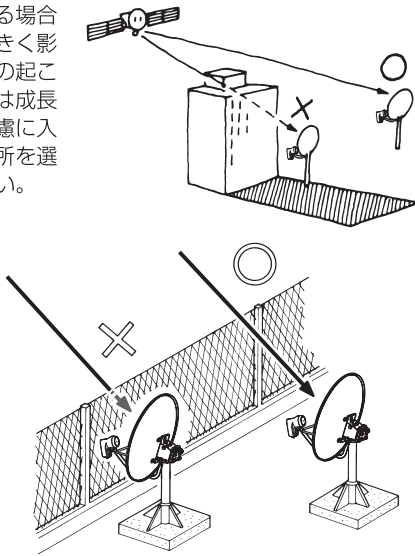
- 融雪装置の元電源ブレーカー(主漏電ブレーカー)を「入」にする。
- 融雪装置用中継器の端子台左からL、Nで入力電圧が100Vであることを確認する。
すべての機器がAC100V仕様になっていますので、絶対に100Vを越える電圧がかからないようご注意ください。

- ご使用の前には必ず、元電源ブレーカー(主漏電ブレーカー)の電源スイッチが「入」になっているか確認してください。
- ※元電源ブレーカー(主漏電ブレーカー)が「入」になっていないとアンテナ融雪装置は作動せず、融雪効果は得られません。
- 異常音、異常振動、電気配線の変色、異臭、誤動作がないことを確認してください。

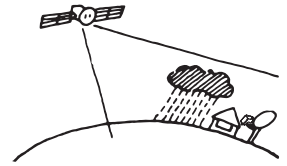
■ BS・110度CSアンテナ設置のポイント

衛星放送をより良く受信していただくために、次の事項にご注意ください。

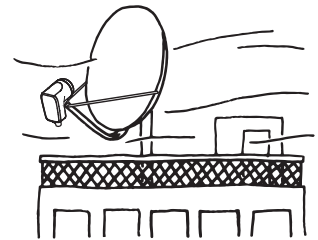
- 受信方向にビルや鉄塔、樹木などの障害物がある場合は、電波の受信に大きく影響します。電波障害の起こらない所か、樹木では成長や繁茂することを考慮に入れて、陰にならない所を選んで設置してください。



- 衛星からの電波は微弱です。そのため豪雨、厚い雲、雪によって、一時的に画面がチラついたり、音声途切れたりしますので、天候の悪い日は設置しないでください。



- このアンテナを取り付けるマストは、とくに屋上など高い場所に設置する時に、台風などの風に長期間耐えるようにし、しっかりと固定してください。

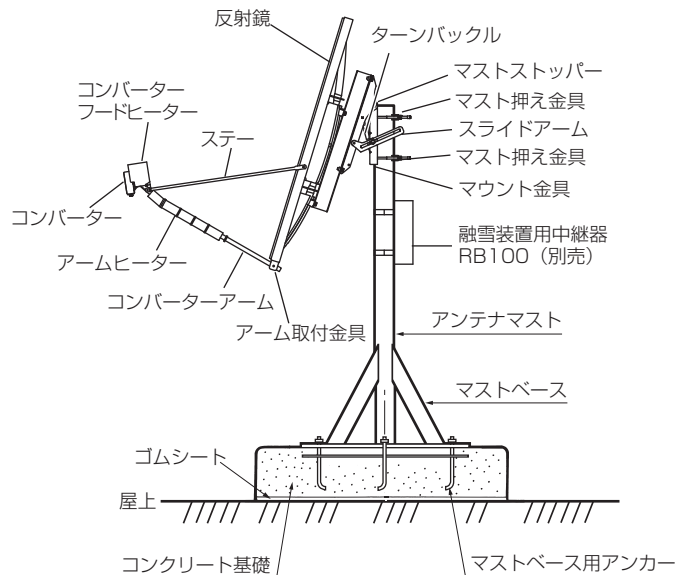


- このアンテナを、煙突の近くなど高温になる場所には設置しないでください。

■ BS・110度CSアンテナの設置例

ご注意

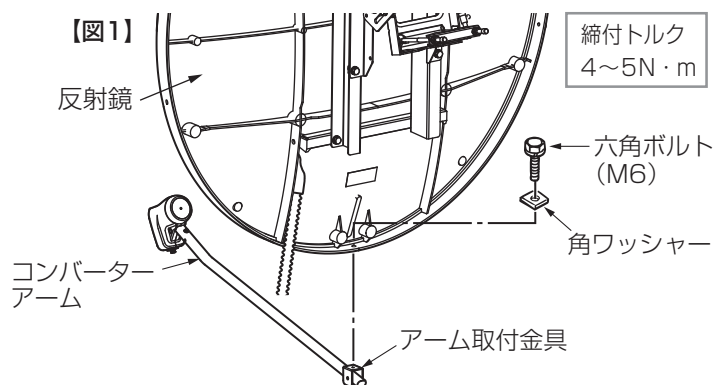
- アンテナマストは垂直に立ててください。
- 設置にあたり強度・安全確保や防水処理が必要です、専門業者へご相談ください。



アンテナの組み立て

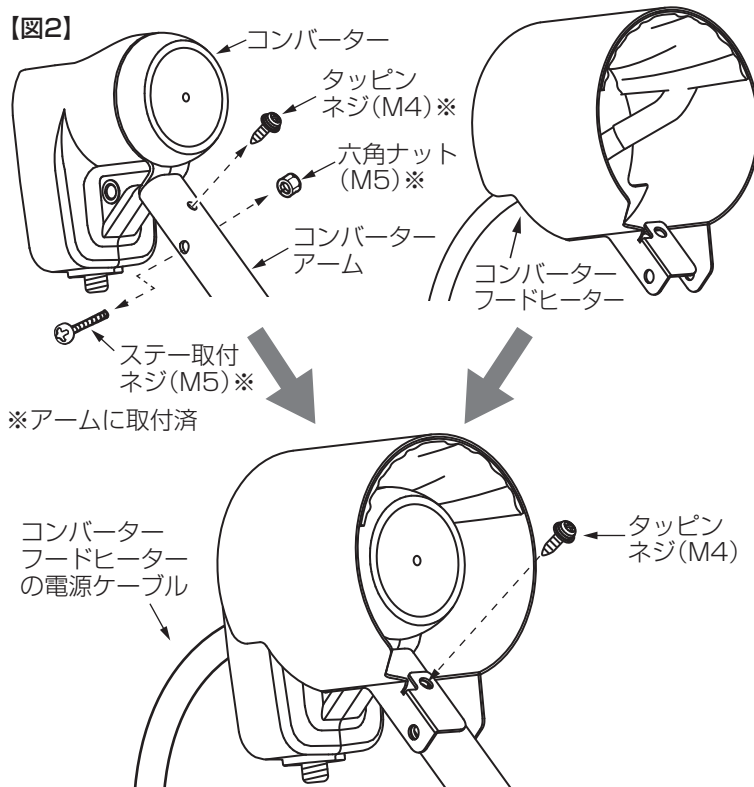
〈コンバーターアームの取り付け〉

- ①コンバーターアームの先端についているアーム取付金具から角ワッシャーと六角ボルト(M6)を外し、反射鏡に仮止めしてください。(図1参照)



〈コンバーターフードヒーターの取り付け〉

- ②ステー取付ネジ(M5)と六角ナット(M5)を緩め、コンバーターアームから外します。
- ③タッピンネジ(M4)を緩め、コンバーターアームから外します。



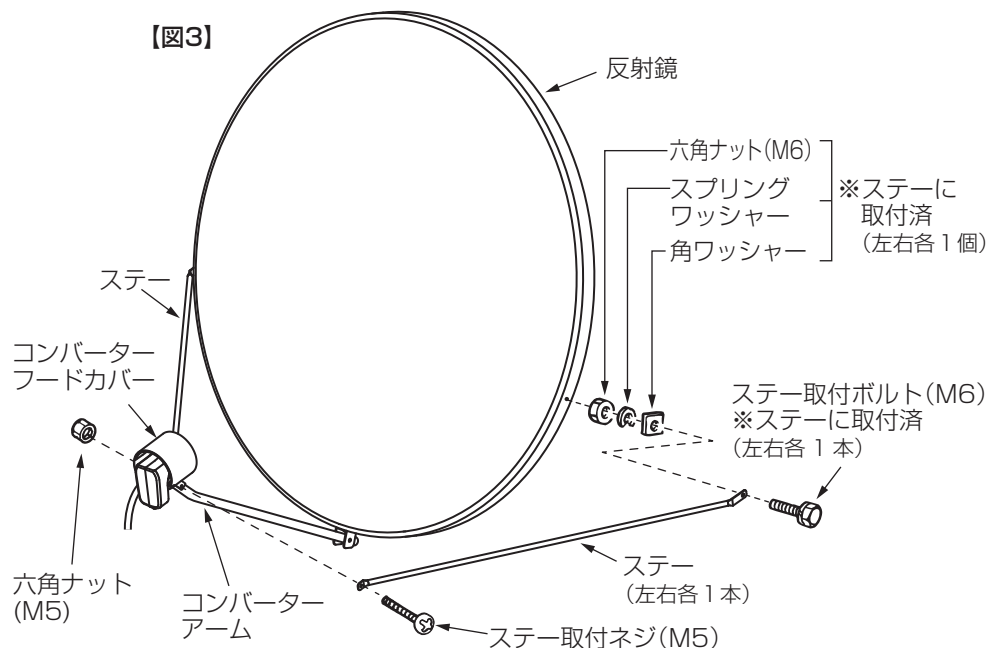
- ④コンバーターフードヒーターのカバー部をコンバーターに合わせ、タッピンネジ(M4)を締め付け固定します。(図2参照)
このとき、コンバーターフードヒーターの電源ケーブルは、コンバーターの背面側へ取り出してください。

締付トルク
タッピンネジ(M4)
0.7~0.8N・m

〈ステーの取付〉

- ⑤ステーの反射鏡側のステー取付ボルト(M6)と六角ナット(M6)を仮止めします。
- ⑥コンバーターフードヒーターをコンバーターアームに取り付けた後、ステーを取り付けます。ステーのコンバーターアーム側をコンバーターフードカバーを介して、ステー取付ネジ(M5)と六角ナット(M5)で仮止めします。(図3参照)

- ⑦①で仮止めした六角ボルト(M6)と、⑤⑥で仮止めしたステー取付ネジ(M5)および、ステー取付ボルト(M6)を指定の締付トルクで取り付けてください。

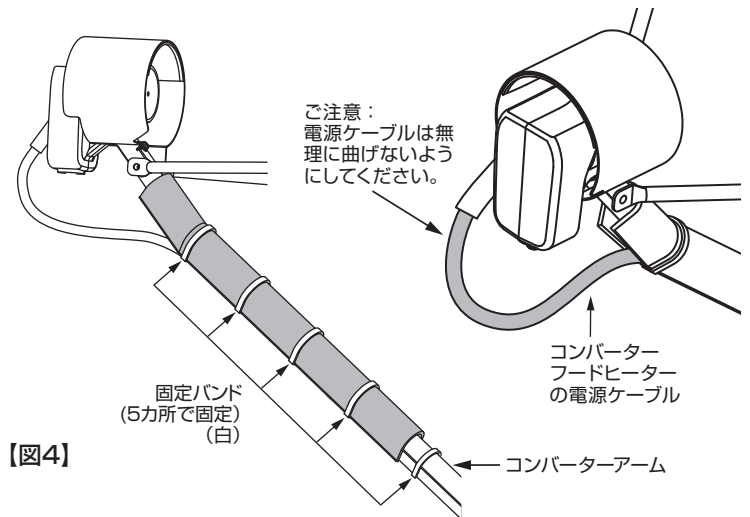


締付トルク
M5 2~3N・m
M6 4~5N・m

アンテナの組み立て (つづき)

〈アームヒーターの取り付け〉

- ④アームヒーターをコンバーターアームの上から包むように巻きつけて、アームヒーターの電源ケーブルとコンバーターフードヒーターの電源ケーブルを**固定バンド5本(白)**で締め付け固定してください。(図4参照)



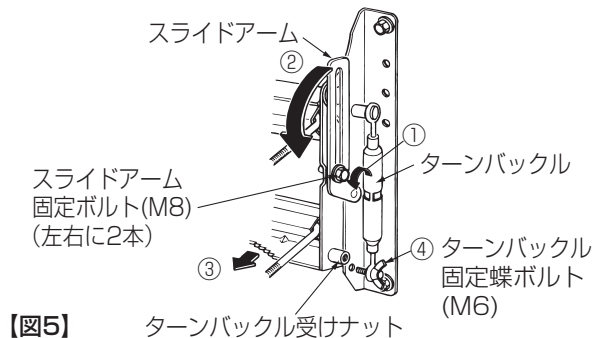
【図4】

アンテナマストへの取り付け

- 取付可能なマストは直径48.6mm～90mmです。
- アンテナマストは垂直に設置されていることを確認してください。

〈マウント金具の組み立て〉

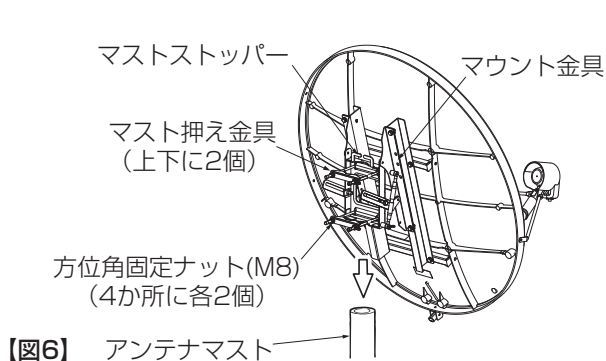
- ①スライドアーム固定ボルト (M8) を、スライドアームの移動がスムーズにできるように左右とも緩めてください。(図5参照)
- ②左右のスライドアームの上端を手前に引いてください。
- ③マウント金具本体の下部を手前に引き出してください。
- ④ターンバックル先端のターンバックル固定蝶ボルト (M6) をターンバックル受けナットに手で締め付けてください。



【図5】

〈アンテナマストの先端に取り付ける場合〉

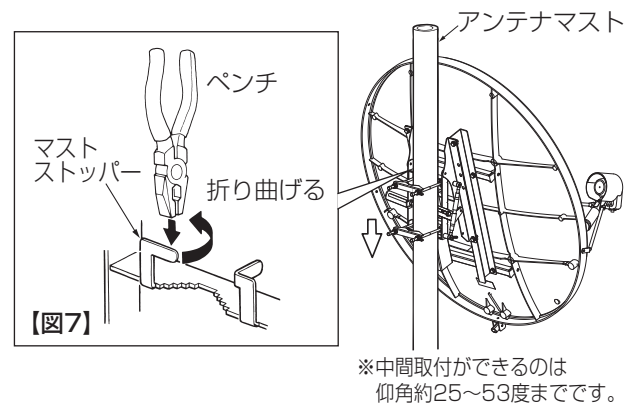
- ⑤マスト押え金具 (上下2個) とマウント金具本体の間にアンテナマストが入るよう方位角固定ナット (M8) 4個を十分緩めてください。(図6参照)
- ⑥アンテナマストをマストストッパーに当たるまで差し込み、方位角固定ナット (M8) 4個を左右均等に締めて仮止めしてください。(注)



【図6】

〈アンテナマストの中間に取り付ける場合〉

- ※地域によっては、中間取付ができませんのでご注意ください。
- ⑤マストストッパーを図のように折り曲げます。(図7参照)
 - ⑥方位角固定ナット (M8) を緩めアンテナマストを差し込みます。
 - ⑦アンテナマストをマウントとマスト押え金具ではさみ、方位角固定ナット (M8) で仮止めします。(注)



【図7】

※中間取付ができるのは仰角約25～53度までです。

(注) 上記で仮止めしたボルトとナットの最終的な固定は、アンテナを最良の受信方向に調整した後に行なってください。

接栓への同軸ケーブルのつなぎ方

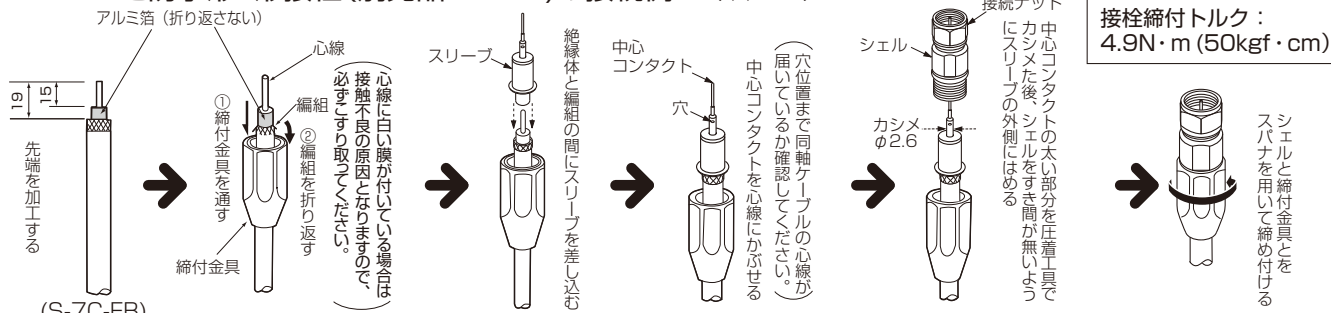
同軸ケーブルの種類によって接栓の種類と接続方法が変わります。

- ・7C相当の同軸ケーブルをご使用になる場合: 防水形F形接栓をご使用ください。
4K・8K放送(3224MHz)に対応したS-7C-FBの低損失のケーブルをお勧めします。
- ・5C相当の同軸ケーブルをご使用になる場合: F形接栓と付属の防水キャップをご使用ください。
4K・8K放送(3224MHz)に対応したS-5C-FBの低損失のケーブルをお勧めします。

ご注意

- ・接栓は同軸ケーブルに適したサイズのものをご使用ください。
- ・同軸ケーブルの先端処理をする場合、心線、編組に傷をつけないでください。断線の原因になります。
- ・編組と心線が接触しないようにしてください。テレビが見えなくなるだけでなく、電源部がショートして火災や感電の原因となります。
- ・接栓を取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。

<S-7C-FBと防水形F形接栓(別売品:F-7FH)の接続例> (単位: mm)



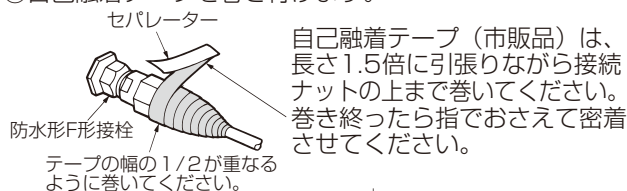
<出力端子への接続>

- ① 図のようにコンバーターの出力端子に接栓を接続し、スパナなどでしっかりと締め付けてください。このとき、必要以上に締め付けると出力端子を破損する恐れがありますので2N·mを超えるトルクで締めないでください。

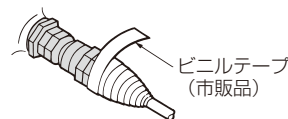
<防水形F形接栓使用のコンバーターの防水処理>

出力端子に接続した接栓は、図のように確実に防水処理を施してください。

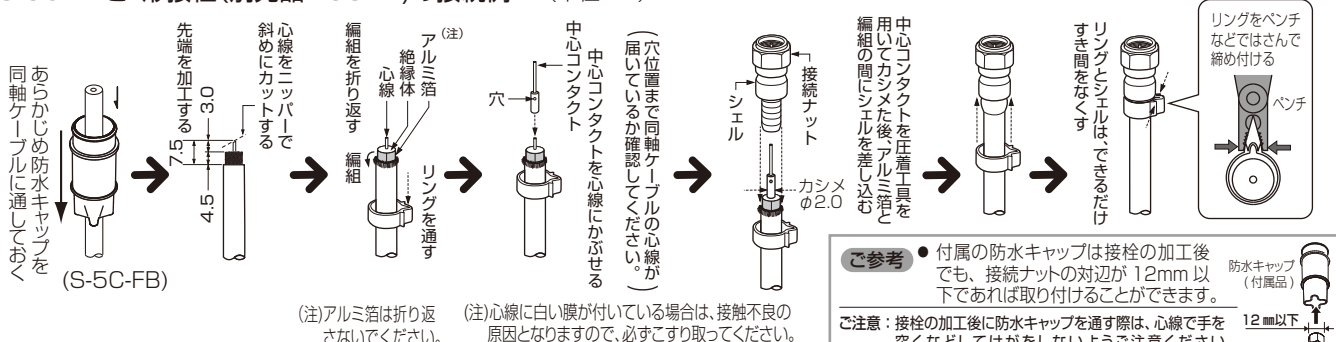
- ② 自己融着テープを巻き付けます。



- ③ さらにその上にビニルテープ(市販品)を巻き付けます。



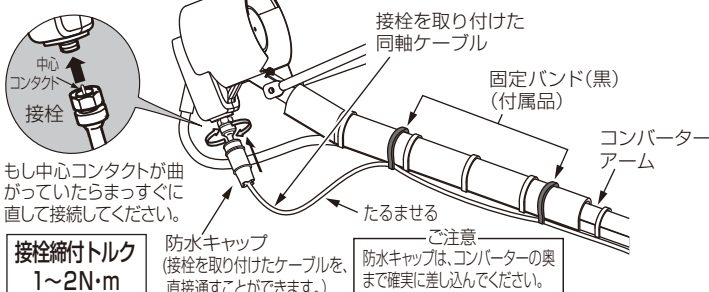
<S-5C-FBとF形接栓(別売品:F5SP2)の接続例> (単位: mm)



<出力端子への接続>(付属の防水キャップ使用)

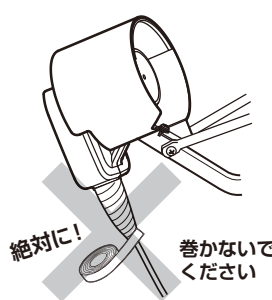
- ① 図のようにコンバーターの出力端子に接栓を接続し、スパナなどでしっかりと締め付けてください。このとき、必要以上に締め付けると出力端子を破損する恐れがありますので2N·mを超えるトルクで締めないでください。
- ② 同軸ケーブルに通しておいた防水キャップをコンバーターの奥までしっかりと差し込んでください。

- ③ 防水キャップが曲がったり、変形してはすれないように同軸ケーブルにはゆとりを持たせて付属の固定バンド(黒)でアームに固定してください。



禁止 テープで巻かない!

コンバーターや防水キャップにはビニルテープを巻かないでください。雨水がたまって故障の原因となります。



アンテナを調整する

■ アンテナの仰角・方位角の設定

〈仰角の設定〉

- ①別表(11ページ)の「主な都市でのBS・110度CSアンテナの仰角と方位角の目安」からアンテナ設置地区のおよその仰角を確認のうえ調整してください。(図8参照)
- ②ターンバックルをスパナなどで回転させて、スライドアーム固定ボルトの中心を①で確認した仰角の位置に合わせて仮固定してください。(左右2か所)

〈方位角の設定〉

- ①マスト押え金具の方位角固定ナット(M8) 4か所を緩めます。(図9参照)
 - ②別表(11ページ)の「主な都市でのBS・110度CSアンテナの仰角と方位角の目安」から、アンテナ設置場所のおよその方位角を確認のうえ調整してください。
 - ③市販の方位磁石などでおよその方向を確認し、反射鏡を回転させ方位角固定ナット(M8)を締めて仮止めしてください。(ビルの屋上など方位磁石の近くに磁性体がある場合は、方位磁石が正確に働かない場合があります。この場合は方位磁石を移動させながら正確な方位角を求めてください。)
- ※最終的に、正確な仰角、方位角の調整は、衛星からの電波を受信して行います。

■ 仰角・方位角の正確な調整

アンテナの方向調整は衛星からの電波を受信して行います。アンテナの正確な方向調整はCS・BSレベルチェッカーおよびスペクトラムアナライザーなどを用いる方法について説明します。

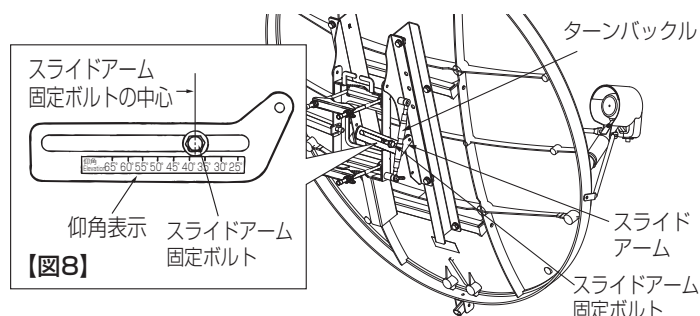
- ①アンテナをCS・BSレベルチェッカーに接続するか、または通電形2分配器などを用いて、スペクトラムアナライザー、BS・110度CS対応チューナーなどに接続してください。
 - ②コンバーター電源(DC15V)は通電形2分配器などを介して同軸ケーブルに重畳してCS・BSレベルチェッカーなどからコンバーターへ供給します。(図10参照)
 - ③別表(11ページ)の「主な都市でのBS・110度CSアンテナの仰角と方位角の目安」からアンテナ設置地区のおよその仰角と方位角を求めます。
 - ④マウントのスライドアーム固定ボルト(左右2か所)を緩めます。(図10参照)
 - ⑤マウントの仰角目盛を設置地区の仰角に合わせて仮固定します。
 - ⑥マウントの方位角固定ナット(M8)4か所を緩めます。
 - ⑦市販の方位磁石を用いてアンテナを先に求めた方位角の方向に向けます。
 - ⑧アンテナの方向を左右にゆっくりと振ってCS・BSレベルチェッカーの入力レベルが最大となる方向に調整し、アンテナが左右にずれないように方位角固定ナット(M8)を仮止めします。
 - ⑨スライドアーム固定ボルトを緩めてターンバックルを回転させアンテナの方向を上下にゆっくり振って、CS・BSレベルチェッカーの入力レベルが最大となる方向に調整し、アンテナの方向が上下にずれないようにスライドアーム固定ボルトを仮止めします。
- ⑥、⑧、⑨の操作を繰り返し行なってください。

※この時、サイドローブと間違えないために、最大入力レベルを通り越して次のピークとなるところまで仰角および方位角を調整して、図の特性になっていることを確認してください。その後、最大入力レベル時(メインローブ)の仰角および方位角にアンテナの方向を戻してください。(図12参照)

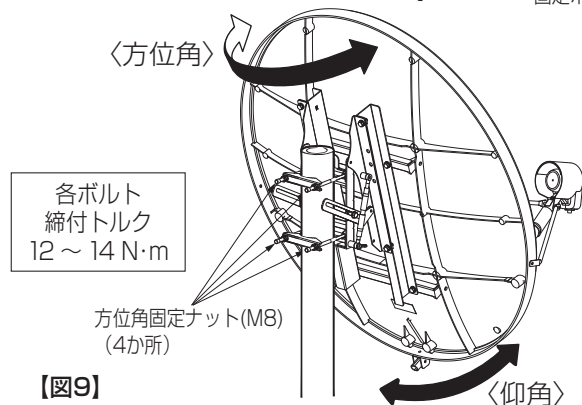
- ⑩最良の受信状態となった位置で、方位角固定ボルトとスライドアーム固定ボルトを全て強固に締め込み仰角・方位角を固定してください。(図11参照)

※方位角のボルト・ナット締め付けは調整した方位角がずれないように左右均等に行なってください。

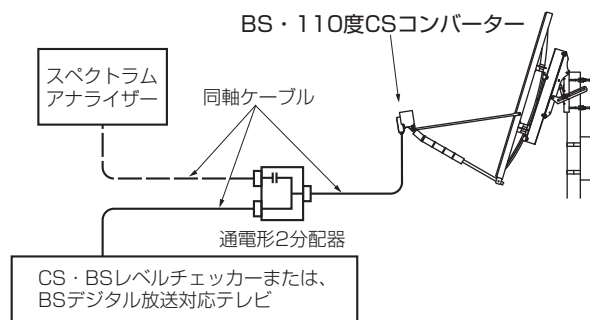
- ⑪仰角・方位角を固定した後、ズレのないことをスペクトラムアナライザーまたは、CS・BSレベルチェッカーで再確認してください。



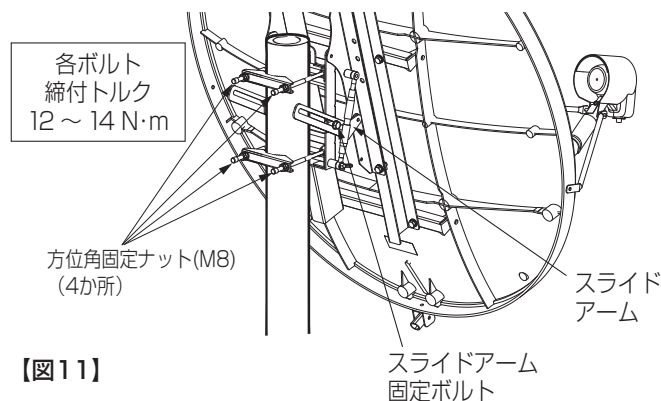
【図8】



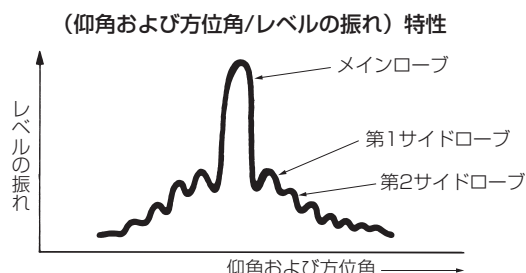
【図9】



【図10】



【図11】



【図12】

アンテナを調整する (つづき)

■ 融雪装置用中継器 RB100 (別売) の取り付け

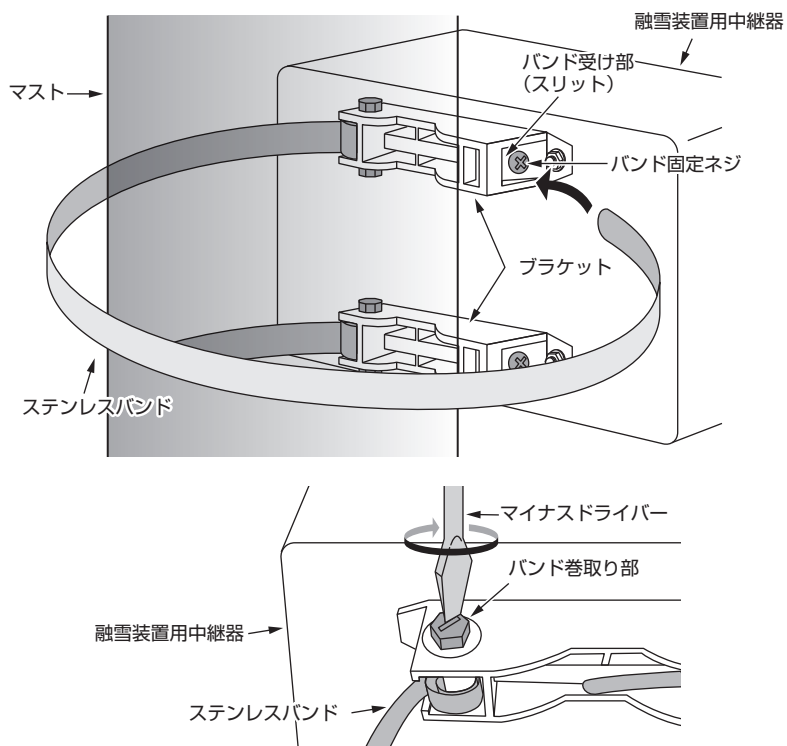
〈マストへの取り付け〉

1 融雪装置用中継器は上下2か所のステンレスバンドでマストに取り付けます。
バンド固定ネジを緩めます。融雪装置用中継器をマストに合わせ、ステンレスバンドをマストに巻きつけ、それぞれブラケットのバンド受け部(スリット)へ通してください。

2 ブラケット側面のバンド固定ネジをそれぞれ締め付け固定してください。

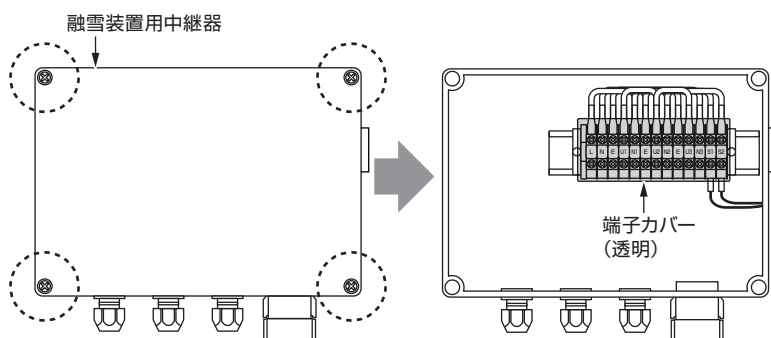
3 反対側側面のバンド巻取り部をマイナスドライバー*で回転させて、ステンレスバンドを締め付け、融雪装置用中継器をマストに固定します。

※ドライバーはサイズの合ったものをご使用ください。



〈融雪装置用中継器へヒーターの電源ケーブルの接続〉

1 融雪装置用中継器の4か所のネジを緩め、フタを外し、中の端子カバー(透明)を外します。



●電源ケーブルと端子について

①元電源(ブレーカー)からの電源ケーブル

・端子 L: 黒 N: 白 E: 赤

②コンバーターフードヒーターの電源ケーブル

・端子 U1: 黒 N1: 白 E: 赤

③アームヒーターの電源ケーブル

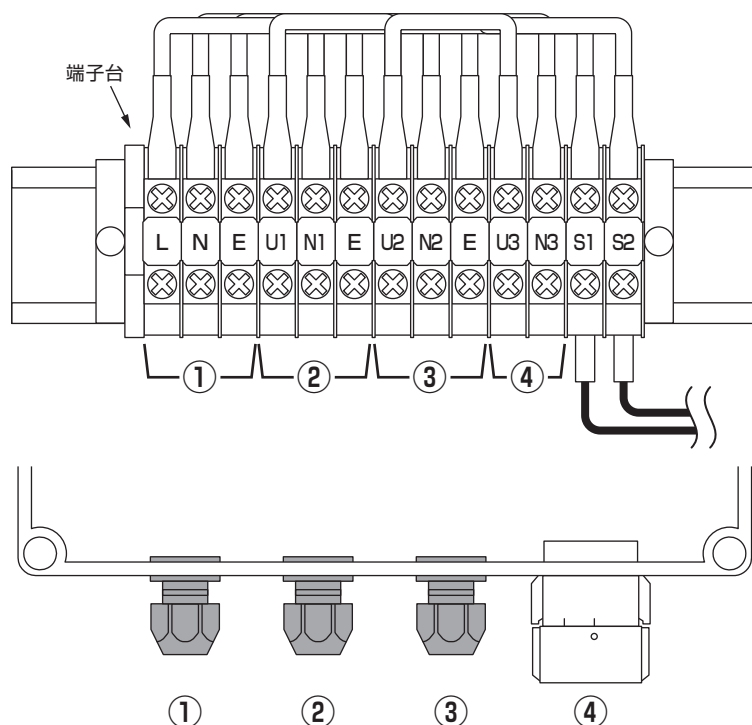
・端子 U2: 黒 N2: 白 E: 赤

④反射鏡ヒーターの電源ケーブル、PF 管

・端子 U3: 黒 N3: 白

※①の元電源(ブレーカー)から融雪装置用中継器まで引き込む電源用ケーブルは、ビニルキャプタイヤケーブル 0.75sq 3c を使用してください。

※圧着端子は、内径φ3.7 外径φ6.6のものをご使用ください。

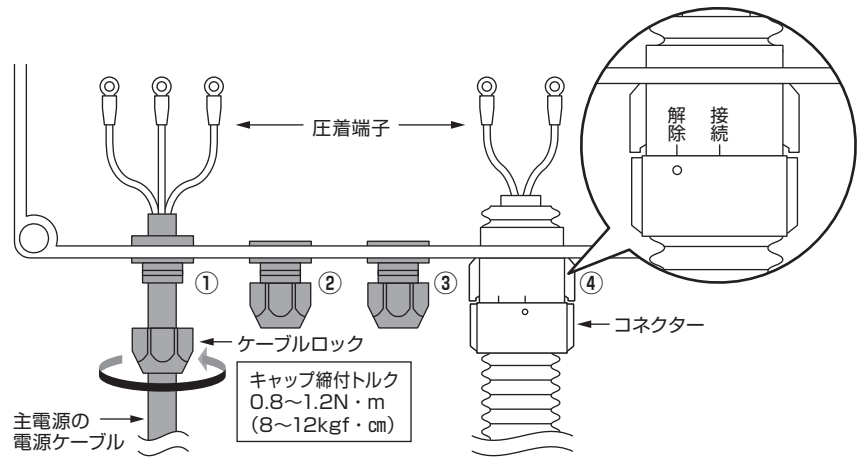


アンテナを調整する(つづき)

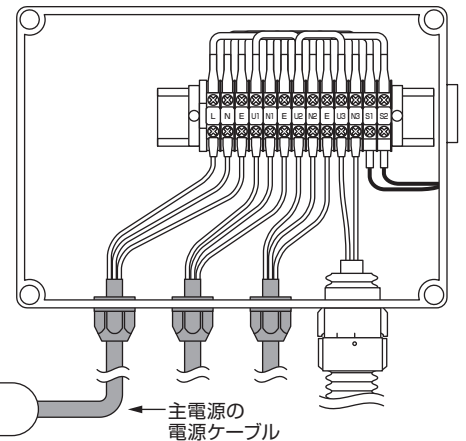
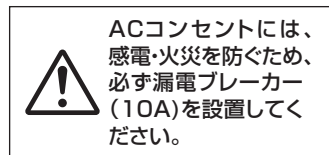
2 ①～③のケーブルロックを融雪装置用中継器から外し、あらかじめ電源ケーブルに挿し込んでから、融雪装置用中継器に電源ケーブルを通して、ケーブルロックを締め込んで固定します。圧着端子*を端子台に接続した後、締め付け固定します。

④のコネクターの下部分を「解除」までひねり、反射鏡ヒーターの電源ケーブル(PF管)*を奥まで挿し込み、圧着端子*を端子台に接続した後、「接続」に戻して固定します。

※接続する電源ケーブル・圧着端子はP10の「●電源ケーブルと端子について」を確認してください。



<接続完了状態>



3 接続後、端子カバー(透明)を取り付け、融雪装置用中継器のフタを閉じて4か所のネジで、しっかり締め付けてください。

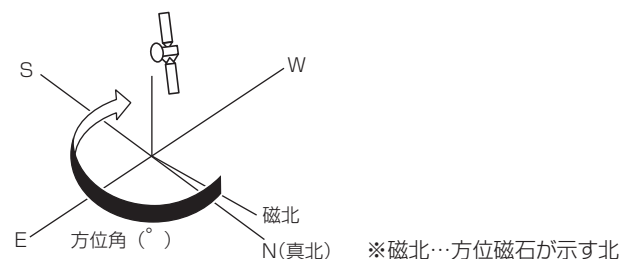
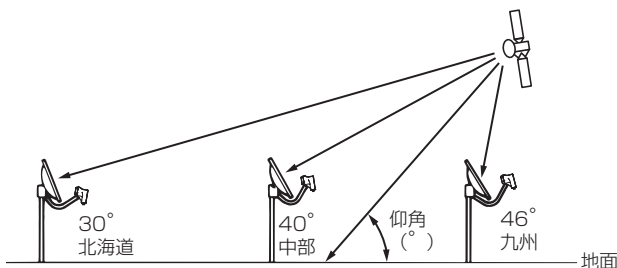
締めトルク
1~1.5N・m(10~15kgf・cm)

■ 主な都市でのBS・110度CSアンテナの仰角と方位角

仰角、方位角は地域により異なります。同じ地域でも場所により多少異なりますので、下表をご参照ください。

<仰角…受信点から衛星を見上げた角度>

<方位角…磁北から東回りに測った衛星の角度>



■ 主な都市でのBS・110度CSアンテナの仰角と方位角の目安 (地域や場所によって異なります)

都市名	仰角(°)	方位角(°)	都市名	仰角(°)	方位角(°)	都市名	仰角(°)	方位角(°)	都市名	仰角(°)	方位角(°)	都市名	仰角(°)	方位角(°)
稚内	29.1	227.4	宇都宮	37.2	230.5	浜松	40.1	229.2	神戸	41.6	226.1	福岡	45.2	220.4
旭川	30.1	229.0	水戸	37.0	231.3	富山	38.7	227.2	姫路	41.8	225.3	大分	44.9	222.4
釧路	29.6	231.6	前橋	37.9	229.6	金沢	39.2	226.6	和歌山	42.0	226.4	熊本	45.8	221.4
札幌	31.2	228.2	土浦	37.4	231.2	岐阜	40.1	227.6	鳥取	41.4	224.2	佐賀	45.6	220.5
函館	32.5	228.2	大宮	37.9	230.6	名古屋	40.1	228.0	松江	41.9	222.6	長崎	46.3	220.3
青森	33.3	228.8	浦和	38.0	230.7	豊橋	40.2	228.8	岡山	42.3	224.4	宮崎	46.2	223.1
盛岡	34.0	229.9	千葉	37.9	231.1	津	40.8	227.7	広島	43.4	222.7	鹿児島	47.0	222.1
秋田	34.6	228.7	東京	38.0	230.9	福井	39.8	226.4	徳島	42.5	225.7	奄美大島	50.5	223.2
仙台	35.3	230.5	甲府	38.7	229.5	大津	40.9	226.7	高松	42.6	224.9	那覇	53.6	222.4
山形	35.6	229.9	厚木	38.4	230.7	京都	41.0	226.5	松山	43.7	223.5	宮古島	56.3	219.6
福島	35.9	230.4	横浜	38.3	231.0	奈良	41.4	226.7	高知	43.5	224.8	西表島	57.6	217.5
新潟	36.6	228.6	長野	38.2	228.4	大阪	41.5	226.5	山口	44.3	220.9	石垣島	57.4	218.0
郡山	36.3	230.5	静岡	39.4	229.8	堺	41.5	226.5	北九州	44.7	220.9	与那国島	57.9	215.6

※表の方位角は方位磁石が示す北(磁北)から時計回りにみた時の角度です。方位磁石を使用する場合の参考に使用してください。

規格特性

品名	融雪装置付 90 形 BS・110 度 CS アンテナ	コンバーター	−55 (1 kHzオフセット) 以下 −73 (5 kHzオフセット) 以下 −83 (10kHzオフセット) 以下
型番	BCH902S	局発位相雑音 (dBc/Hz)	
アンテナ有効径 (cm)	90	コンバーター電源 (ケーブル重量) (V)	DC 13.2~16.5 (DC15V入力時 2.4W以下) 注2)
受信偏波	右旋円偏波 / 左旋円偏波	コンバーター出力インピーダンス (Ω)	75 (F形)
受信周波数 (GHz)	11.71~12.75/11.73~12.73	耐風速 (m/s)	受信可能風速20、復元可能風速50、破壊風速60 注3)
コンバーター出力周波数 (MHz)	1032~2072/2224 ~ 3224	適合マスト径 (mm)	φ48.6~90.0
利得 (dB)	アンテナ部 BS: 39.4 CS: 39.8 コンバーター部: 53 注1)	仰角調整範囲 (°)	25~65 (中間取付時25~53)
コンバーター雑音指数 (dB)	0.45 注1)	方位角調整範囲 (°)	0~360
G / T (dB/K)	BS: 20.3 CS: 20.7 注1)	質量 (kg)	17.0

反射鏡融雪装置

電源電圧 (V)	AC100(50/60Hz)
定格電力 (W)	250(±20%) 注4)
発熱温度 (°C)	55±15(反射鏡表面) 注5)
発熱面積	反射鏡表面下約70%
融雪能力	10cm/h以下 注6)
電源ケーブル	VCT 0.75sq-2C 5m 注7)

コンバーターアーム融雪装置

電源電圧 (V)	AC100(50/60Hz)
定格電力 (W)	13(±20%) 注4)
発熱温度 (°C)	65±15(外装表面) 注5)
融雪能力	10cm/h以下 注6)
発熱部外径寸法 (mm)	(W)90×(L)330
電源ケーブル	2PNCT 0.75sq-3C 5m

コンバーターフード融雪装置

電源電圧 (V)	AC100(50/60Hz)
定格電力 (W)	2.7(±25%) 注4)
発熱温度 (°C)	50±15(ステンレスフード表面) 注5)
融雪能力	10cm/h以下 注6)
ステンレスフード外径 (mm)	(W)92×(D)95
発熱部外径寸法 (mm)	(W)73×(L)135
電源ケーブル	2PNCT 0.75sq-3C 5.7m

注1) 利得 (アンテナ部)、コンバーター雑音指数、G/Tは標準値です。

注2) コンバーター電源の規格は、コンバーター出力端子に必要な電源電圧です。

注3) 受信可能風速: アンテナに風圧を加えている間、電気的性能の劣化が許容範囲内であるときの最大風速。

復元可能風速: アンテナに風圧が加わった後、アンテナの方向を再調整することによって、電気的性能を満足する最大風速。

破壊風速: アンテナに風圧を加えている間、アンテナの一部または全部が飛散しない最大風速。

注4) 周囲温度7°C以下ヒーターONのときの目安です。

注5) 発熱温度は周囲環境25°Cのときの目安です。

注6) 気象条件によっては、十分に融雪できない場合があります。 注7) PF管で保護

※RB100 (別売) のサーモスタットの動作温度の目安は、ON: 約7°C OFF: 約17°Cです。

(融雪装置用中継器 RB100と組み合わせた場合)

仕様は改良により、予告なく変更させていただくことがありますのでご了承ください。

※この製品を処分するときは、産業廃棄物として処理してください。

製品に関する
お困りごとを解決!

DXサポ!

スマートフォンで
各種設定方法が
わかる➡

QRコードからアクセスしてください。

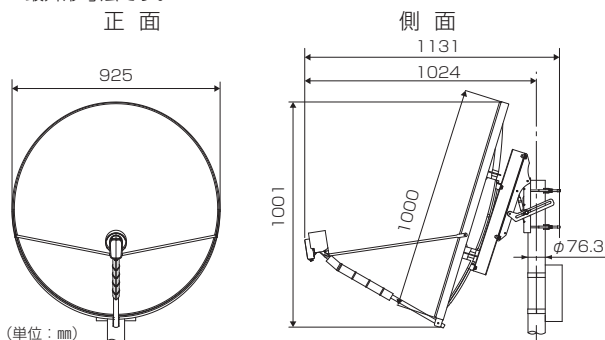
ホームページでも初期設定や、各種端末の詳しい手順を確認できます。
QRコードからアクセスしてください。

[1002]

2K4K8K

2K・4K・8K放送対応マークは、BS・110度CSにて既に放送されている2K放送と4K・8K放送 (新4K8K衛星放送) に対応した機器 (3224MHz) であることを示します。

※下記寸法はアンテナ仰角が40°、マスト径φ76.3mmの場合の
最外形寸法です。



保証書

(2111-09-00)

■保証期間

製品の保証書または購入日が確認できる購入証明書 (レシート、納品書など) に記載されている購入日より1年間、本製品を本規定に従い無償修理をすることを保証いたします。※消耗品は除く

保証期間
1年間

■無償修理

保証期間中、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い求めの販売店にお持ちいただくか、弊社修理センターに送付してください。弊社修理センターへご送付いただく場合の送料はお客様のご負担となります。また、ご送付いただく際、適切な梱包の上、紛失防止のため受渡の確認ができる手段 (宅配や簡易書留など) をご利用ください。尚、弊社は運送中の製品の破損、紛失については一切の責任を負いかねます。

■適用の除外

次のような場合には保証期間中でも有償修理となります。

- ① ご使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障および損傷。
- ② お買い上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
- ③ 火災、地震、噴火、洪水、津波などの水害、落雷、その他の天変地異、戦争、暴動による破壊行為、公害、塩害、ガス害または、ねずみや昆虫、鳥などの動物の行為による損傷、指定以外の使用電源 (電圧、周波数) や異常電圧による故障および損傷。
- ④ 塗装の色あせなどの経年劣化や、使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
- ⑤ 用途以外 (例えば車両、船舶への搭載など) に使用された場合の故障及び損傷。
- ⑥ 製品の保証書または購入日が確認できる購入証明書 (レシート、納品書など) を提示、添付されていない場合。
- ⑦ 保証書にお買い上げ年月日、お買い求めの販売店の記入がない場合、または字句を書き換えられた場合。

⑧ 譲渡品、転売品または中古品として本製品をご購入された場合。(リサイクルショップでの購入、オークション購入での中古品を含む)

⑨ その他、無償修理または交換が認められない事由が発見された場合。

■免責

- ・本製品の故障について、弊社に故意または重大な過失がある場合を除き、弊社の債務不履行および不法行為等の損害賠償責任は、本製品購入代金を上限とさせていただきます。
- ・本製品の故障に起因する派生的、付随的、間接的および精神的損害、逸失利益につきましては、弊社は一切責任を負いかねます。

■その他

- ・保証書の再発行は行いません。
- ・修理で交換された故障製品および故障部品の所有権は、弊社へ帰属とさせていただきます。
- ・製品修理にかかる付帯費用 (運賃、設置工事費、人件費) については、弊社は一切の費用負担を行いません。
- ・有償、無償にかかわらず修理により交換された旧部品または旧製品等は返却いたしません。
- ・同機種での交換ができない場合は、保証対象製品と同等またはそれ以上の性能を有する他の製品と、交換させて頂く場合があります。

■有効範囲

本保証規定に基づく保証は日本国内においてのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

お 買 上 年 月 日	ご 住 所 ・ 店 名
年 月 日	電話 () -

カスタマーセンター

土・日・祝日もご利用ください!



0570-033-083

※ 全国一律料金でご利用いただけます。

※ 携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

※ ナビダイヤルは各社音声通話定額サービスの対象外となっております。

(1908)

DXアンテナ株式会社

■ 受付時間 9:30~17:00 (夏季・年末年始休暇は除く)

■ 一部のIP電話で上記番号がご利用にならない場合: 050-3818-9016

ホームページアドレス

<https://www.dxantenna.co.jp/>

6110-2